

春 秋 新



「小国型教育フォーラム」



「ホテル再生プロジェクト」での水生生物調査



「なごみの里づくりプロジェクト」

～現場に学び実践力を育む～

包括協定による取組がスタートしました！

※詳細は、P3 をご覧ください

目次

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 2・3 特集1 地域社会を担う人材育成 | 10・11 就職支援 |
| 4 特集2 食育ビジョン策定 | 12 キャンパス・ニュース |
| 5 国際交流 | 13 お知らせ |
| 6～8 学部紹介 | 14・15 後援会便り |
| 9 学生の声・サークル便り | 16 行事予定、Information |

SYUNJUSAI
熊本県立大学・学報

2007.4
VOL.26

■ 肥後銀行・熊本日日新聞社による「協力講座」がスタートします！

熊本県立大学は、豊かな教養を備え、21世紀の地域社会ひいては国際社会の発展に貢献できる、有為で創造性豊かな人材を育成するため、次のような目標を掲げ、教育力の充実に力を注いでいます。

論理的思考能力の育成を重視し、自ら課題を抽出・設定し、課題分析・総合的判断ができる能力を有する人材を育成する。

積極性、自律性及び行動力を身につけた、社会状況の変化に柔軟に対応できる人材を育成する。

地域社会及び国際社会に興味・関心を有し、異質性を認めることができ、協調性があり、社会において人的ネットワークの形成ができる能力を涵養する。

このような能力を育成するため、これまでも様々な特色ある教育を展開してきましたが、新たに「協力講座」を開講することとしました。

「協力講座」は、企業の持つ実践的知識を学生に提供するため、大学が開講する正規の授業科目について、協定を締結した企業等が実際の講義を担当するという新しい形態の講座です。

第1弾として、平成19年度から、肥後銀行・熊本日日新聞社の2社による講座がスタートします。



開講にあたり平成19年1月24日に行われた調印式（写真左から肥後銀行 小栗頭取、荻茂理事長、熊本日日新聞社 柿山副社長）

平成19年4月 開講

講座名 地域流通経済論
(総合管理学部専門科目)

対象年次 3～4年次

講師(企業) 肥後銀行・地域流通経済研究所

講義内容 研究所が有する統計資料等を教材として、地域流通について事例研究などにより実践的に学びます。

平成19年10月 開講

講座名 現代社会と企業
(全学共通教養科目)

対象年次 1年次～

講師(企業) 肥後銀行・地域流通経済研究所

講義内容 本県の経済動向や地域の企業を素材として、企業経営のあり方など企業についての基本的な知識を学びます。

平成19年10月 開講

講座名 マスメディア論
(全学共通教養科目)

対象年次 1年次～

講師(企業) 熊本日日新聞社

講義内容 多様化するメディア社会におけるマスメディアのあり方について、新聞社の第一線の記者による演習など実践的に学びます。

今後、協力講座への参加を広く企業等に求めていきたいと考えています。

■ 現場に学び実践力を育む～

熊本県立大学では、「理論を現場(地域)に学ぶ」体験的、実践的な学習方法であるフィールドワークや、地域課題解決(地域貢献)と教育を結びつけた地域研究教育充実のための「もやいすと」育成プログラムを導入するなど、現場に学び実践力を育むための特色ある教育を展開してきました。

これらに加え、昨年度新たに「包括協定制度」を整備し、包括協定を交わした自治体・企業等との連携のもと、学生が現場に学ぶ取組をスタートさせました。

包括協定とは…

「包括協定制度」は、本学と自治体・企業等が、地域における活動や調査・研究などの様々な分野において相互に協力することを目的としています。協定を交わすことにより、本学と自治体・企業等が連携協力して地域の課題解決に取り組むための体制をつくります。

〔包括協定先(締結順)〕平成19年3月末現在

1企業・7自治体と締結

企業：富士電機システムズ(株)

自治体：阿蘇郡小国町、球磨郡あさぎり町、玉名郡和水町、菊池郡菊陽町、天草市、水俣市、宇城市

包括協定による具体的な取組の紹介



小国町での取り組み

本学と阿蘇郡小国町との包括協定に基づいて、学生が小国町において活動を行っています。

平成18年9月及び12月には、「もやいすと」育成プログラムに参加した学生が小国町を訪問し、役場や住民の方からまちづくりに関するお話を聞いたり、実際に山に入って枝打ち作業を行うなど、地域の課題について調査を行いました。



ホタル再生プロジェクト

南関町に工場を持つ富士電機システムズ(株)の支援を受け、山鹿市平小城地区において「ホタル再生プロジェクト」を行っています。平成18年11月には、地域の方々と一緒に河川調査を行い、地区ごとに川底の水生生物調査や、水質試験のための採水などを行いました。今後、調査結果を取りまとめて、ホタル再生に向けた提言を行うこととしています。



なごみの里づくりプロジェクト

和水町ふれあいの森地区において、地元の協議会を中心に行われる里地里山再生活動に、本学・富士電機システムズ(株)・和水町が支援を行います。このプロジェクトでは、里山をフィールドにしたワークショップを行います。学生が自然に触れながら、地元の人たちと一緒に里山の再生に取り組んでいく予定です。

この「地域に生き」の基礎となるのが、「地域実学主義」です。地域に学ぶ」というとき、「理論」と「実践」の二側面が必要不可欠です。また、この二つが相互補完的にうまく機能することが肝要です。すなわち、学内での授業を通しての知識の習得と学外での実践学習を通しての経験の蓄積、この二つがうまくかみ合うことが何にもまして重要なのです。

このたび、肥後銀行と熊本日日新聞社のご協力により、「協力講座」として実際に授業を担当していただくことになりました。また、自治体・企業との「包括協定」の締結により、教員のみならず、学生諸君も実践の場として様々なプログラムに参加出来るようになりました。

「協力講座」での熊本に関する最新の情報と分析、そして「包括協定」に基づく現場での体験、この二つは車の両輪として、必ずや学生諸君を大きく成長させてくれるに違いありません。



学長 米澤 和彦

本学は、「地域に生き、世界に伸びる」をスロー

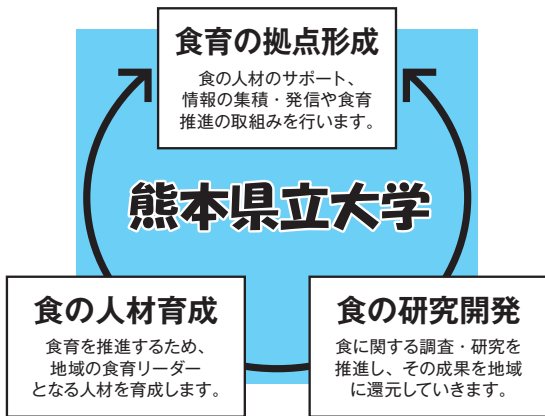
ガンに、大学のバリューアップと人材の育成に全力を注いでいます。

この「地域に生き」の基礎となるのが、「地域実学主義」です。地域に学ぶ」というとき、「理論」と「実践」の二側面が必要不可欠です。また、この二つが相互補完的にうまく機能することが肝要です。すなわち、学内での授業を通しての知識の習得と学外での実践学習を通しての経験の蓄積、この二つがうまくかみ合うことが何にもまして重要なのです。

「理論」と「実践」の統合

“くまもとさんちの食育ビジョン”を策定!

熊本県立大学は、熊本女子大学の時代から栄養士養成課程を有し、現在まで食に関する様々な教育研究活動を行っています。こうしたこれまで培ってきた食に関する資源・ノウハウなどのシーズと、熊本県の食育・食の安全安心・地産地消などのニーズを合致させ、熊本県における食に関する取組の中心としての役割を積極的に果たしていくことを目指して、“くまもとさんち（産地）の食育ビジョン”を昨年12月に策定しました。



このビジョンは、「食の人材育成」「食の研究開発」「食育の拠点形成」の3つのアクションからなり、食に関する各種講演会・研修会、栄養教諭等の資格取得支援等に関するCPD*の実施、食育プログラムの開発や地域食材・機能性食品の発掘、食文化に係る研究、学食を活用した食育の推進などについて、地域連携センター食環境研究情報室を中心に、熊本県をはじめ国、市町村、各種試験研究機関、そして地域の皆さんと連携しながら、具体的なプログラムを実行していきます。

*CPD (Continuing Professional Development) 継続的能力開発

【学食を活用した食育の日の取組】

「くまもとさんち（産地）の食育ビジョン」に基づき学食を活用した食育の日の取組を行っています。国においては、毎年6月を「食育月間」、毎月19日を「食育の日」と定めています。本学においても、毎月の食育の日の前後に、学食において体に優しくバランスの良いメニューを提供するとともに、食に関する説明・リレートークなどを行い食育の推進を図っています。

学生はもとより、地域の方々も参加され、ご好評をいただいています。



学生による食事バランス診断
12/19 実施



学生食堂内の食に関する情報提供



文学部 米谷助教授によるリレートーク
「食育と食文化」 1/23 実施



たこめし定食 1/23 実施

平成18年度
に実施した
学食を活用した
食育の日の
取組

- 7月19日 乳製品と果物をプラスした県大ランチを提供。
- 10月19日 魚を主菜に熊本産の野菜を多く取り入れた県大ランチを提供。食事バランスガイド等に関する説明を実施。
- 11月22日 小国町のジャージー牛乳シチューと黒豚メンチカツ弁当を提供。食事バランスガイドに関する説明を実施。
- 12月19日 あさぎり町のつぼん汁定食を提供。「つぼん汁が語る食文化」をテーマにリレートークを実施。
- 1月23日 天草市のたこめし定食を提供。「天草さんちのたこめし」をテーマにリレートークを実施。

国際交流

～熊本で世界と向き合う～

「東南アジア青年の船」青年交流プログラム ～ASEANの青年達が来学！～

12月8日(金)、内閣府の青年国際交流事業の一つ「東南アジア青年の船」(第34回)参加青年の一行30名が本学を訪れました。本事業は、東南アジア10カ国(ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム)と日本からの参加青年計約300名が2万トンの客船「にっぽん丸」に乗船し、寝食をともにしながら約2か月をかけて各国を訪問するというものです。最後の寄港地日本では12月6日(水)から10日(日)までの間、11グループに分かれて熊本を含む11県を訪問し、ホームステイをはじめとする各種プログラムがあり、その一環として本学学生との交流活動が行われました。



参加青年たちによる各国紹介、本学学生による日本・熊本紹介が行われたあと、茶道、華道、書道、日本の伝統的な遊び(コマや折り紙など)体験コーナーで、日本文化を通じた和やかな交流が行われ、最後は双方からの歌のプレゼントと大合唱で盛況のもとに締めくくられました。

この事業には、これまで本学からも学生が参加しています。関心のある人は、ぜひ、内閣府ホームページ(<http://www8.cao.go.jp/youth/kouryu/bosyu.html>)をのぞいてみてください。

※内閣府が実施する青年国際交流事業の募集期間は、例年2～3月中となっています。

モンタナ州立大学ビリングス校から短期研修団が来学します！

本学の協定校であるモンタナ州立大学ビリングス校から、5月27日(日)～6月6日(水)の11日間、13名の学生が来学予定です。

同校からの研修団の来学は、2年ぶり4回目。滞在中は、本学学生の家庭にホームステイをしながら本学に通い、日本語をはじめとする授業や日本文化体験、サークル交流プログラムなどを受講してもらう予定です。



モンタナ州立大学ビリングス校短期研修団
平成17年来学時の様子

プログラムには、一般学生が参加可能な歓迎会や公開授業など、気軽に交流できる内容も盛り込まれていますので、多くの学生の皆さんの参加を歓迎します。県大生の暖かなハートとホスピタリティで、お迎えしましょう！

なお、6月27日(水)には韓国・祥明大校からの短期研修団も来学します。ホストファミリーを募集中ですので、皆様のご協力をお願いします。

▶問い合わせ先：熊本県立大学事務局 学生支援課
TEL 096-383-2929 内線 205

「春の出版物さまざま」

今回は文学部から毎年刊行されている雑誌をいくつか紹介しましょう。

まず、『文学部紀要第13巻』を2月に発行しました。文学部のホットな研究成果が発表されています。そして、ちよつとカジュアルな雑誌、『文彩』もこの春、第3号を重ねました。また、各学科の企画・編集になる雑誌も出版されています。日本語日本文学科からは伝統ある『国文研究』。『日本語日本文学会会報』には、投稿も盛んで、最新号では「恋」をテーマにエッセイが寄せられました。英語英米文学科からは『ELLA』がいよいよ第5号。修論、卒論が掲載されるほか、詩、小説、随筆、短歌、翻訳と、色とりどりの作品が盛りられています。このほか、馬場研究室責任編集の『日本語教育研究室報告集』が第18号を数えました。いずれ劣らぬなかなかの意欲作、ぜひ一度ご覧ください。入手ご希望の向きは部数に余裕のある限りお分けします。



研究室紹介



日本語学研究室

半藤英明 教授

県立大学に3つある日本語学研究室のひとつが、半藤研究室です。

半藤の専門が主に助詞の研究であるため、分野としては、文法・語法、日本語の歴史や変遷・変化などをテーマとしています。

わたしたち人間は、ありとあらゆるものことから、



県大生による夏休み子ども作文教室

喜び、悲しみ、怒りなどの感情、価値観や人生観などの思考まで、すべてを言葉によって把握しようとしています。つまり、言葉の研究は、人間そのものへの理解に近づく道でもあるのです。

言葉の研究を集積すれば、必ずや、人間のことがわかる、自分のことがわかる、と、学生たちは、それぞれの興味・関心や目的に基づいて研究に取り組み、学会発表にも意欲的に挑戦しています。夏休みには、学生の自主活動として「県大生による夏休み子ども作文教室」を実施しています。もしかすると、言葉を通して「自分探し」をしている者もいるかも知れません。

半藤は、短歌結社の同人で、歌も作ります。言葉に関心がおありの方、また、歌に興味がおありの方、どうぞ研究室をお訪ねください。

研究室紹介



アメリカ文学研究室

坂井 隆 講師

文学や言葉の研究では、文献に加えて日常のあらゆる事象が考察の対象になると考えています。そのため私のゼミでは、文学作品の精緻な読解に加えて、芝居や映画、テレビドラマなどの分析も行っています。ただし、授業では、それらの映像媒体をただ楽しんで受動的に見るのではなく、批判的、かつ分析的に見ることを学生に求めています。

昨年のゼミでは、日米のメロドラマを扱いました。アメリカの典型的なメロドラマ（『アンクル・トムの小屋』の戯曲版）を読むことを授業の中心にすえながら、日本の昼ドラや大映系ドラマの映像も参照しました。その際、エリック・ベントリーやピーター・ブルックスといった批評家のメロドラマ理論を援用した上で日米のメロドラマを比較検討することを学生に要求しました。



日常を学問的な視点でとらえ直すことの難しさと同時に面白さを学生に味わってもらいたいと思っています。

「プレエントランス講座」
を開催しました

12月25日(月)、平成19年度の環境共生学部推薦入試合格者を対象に、「プレエントランス講座」を開催しました。

これは、推薦入試合格者が入学後スムーズに講義・実習に入っていけるように、事前学習指導を実際の大学のキャンパスで行ったもので、対象の13人全員が参加しました。

午前中は、大和田紘一学部長から大学入学までの心構えについて話があったあと、レイヴィンリチャード助教授が「A5で英語―英語読解力の向上を目指して―」、堤裕昭教授が「入門―生物学」、張代洲助教授が「入門―物理」の授業を行いました。また、昼食時には、参加生徒と環境共生学部の教員による懇談会も開かれました。

午後からは、古賀実教授による「入門―化学」の授業があり、その後三専攻に分かれ、専攻の紹介や講義、実験、研究室訪問が行われました。

参加した生徒たちからは、「内容が難しかった」、「いろいろな話が聞けたことがよかった」、「これから勉強していくうえで、大変なめになった」などの意見が聞かれました。



研究室紹介



食環境安全性学研究室
有園 幸司 教授

食環境安全性学研究室では、ヒトと地球環境の生態系との共生に寄与できる研究をコンセプトに研究を進めています。これまで水棲生物及び無脊椎動物を利用した食品関連化合物や環境化学物質の内分泌攪乱作用機構解明・生態影響評価法の確立に取り組んできました。最近では、

機器分析法とバイオアッセイを活用した食品中の農薬汚染などの食環境安全性評価手法開発、熊本県及びくまもと食の安全安心県民会議と協力した食の安全・安心に関するリスクコミュニケーションなど食育に関する調査



研究に取り組んでいます。これらの研究は多くの共同研究者の支援や研究室に在籍した研究員、院生、学部学生諸君の真摯な研究への情熱に支えられています。平成11年4月以降専門誌に記載された学術論文・著書は約150報を越えています。これらの研究成果は国内外の研究者に多数引用頂き、昨年3月には宮田学術論文賞を頂きました。これからも環境共生の理念を基に食環境安全性に関する研究を続けていきます。

研究室紹介



木質構造学研究室
北原 昭男 教授

木造建物は日常における主要な生活の場であり、日本人にはなじみの深いものです。近年では、建設に必要なエネルギーや地球温暖化につながる二酸化炭素の放出が少ないこと、木材がリユース・リサイクルしやすいことなどから、環境にやさしい建物として評価されています。一方、阪神淡路大震災などの被害から、木造住宅の地震被害は居住者の生活に多大な影響を与えることも明らかになっています。

本研究室では、このような木造建物の地震被害を軽減し、安全な居住環境を創るために様々な研究を行っています。写真は格子壁の耐震性能を評価するために行った加力実験の様子ですが、その他にも様々な建物を対象として、耐震設計法・耐震補強法の構築を目指して研究を進めています。また、伝統的な構法による優れた建物を今後に残していくための研究にも取り組んでいます。

今後は、木造建物が本来の日本の住まいの持つ豊かさを保ちつつ、より安全なものとなるよう、研究を進めていきたいと思っています。



格子壁を対象とした加力実験

「ITコンテスト2007」 を開催しました。

情報管理コースでは、2年生による「ITコンテスト2007」を平成19年1月26日に実施しました。2年生は専門的な学習の準備としてデジタルリテラシーとプレゼン能力の育成を目的にゼミ活動をしています。

コンテストはその活動を締めくくるイベントで、今年で3回目となります。

松野、税所、津曲、飯村ゼミから50人の学生が参加し、チーム別あるいは個人別に独自のデジタルコンテンツを制作しました。コンテストでは、自分たちのコンテンツに込めた意図や技術をパワーポイントを使って発表していきます。審査の結果、Web「コンテンツ」から垣花真理・得能良太・松村伊純チーム、

ビデオコンテンツから北嶋壮士・西本美穂・藤木拓郎チーム、EBS「コンテンツ」からは西佳那子と吉岡一心が、それぞれ優秀賞を受賞しました。情報管理コースのミーム（文化的遺伝子）は2年生にも確実に伝承されており、水準の高い作品群を真剣にプレゼンしている学生たちの姿には、また新たな文化を生み出していくパワーを感じました。



研究室紹介

パブリックアドミニストレーションコース



吉村信明 准教授

私は法学の中での商法という分野を研究しています。商法というのは現

代社会において大きな役割を果たしている企業、とくに「会社」に関する法律です。近年大きな会社で不祥事件が多発し、巨額の損失が発生して経営悪化や倒産にいたる事例も増加して、出資者や取引先、消費者に損害を被らせています。その原因として会社経営者（取締役）による違法・不正な行為を挙げることができますが、経営者の違法・不正な行為を防止するために必要な経営チェック機能が働かなかったことも重要な問題として取り上げなければなりません。

学生が会社へ就職するところのような問題と直面し自分で解決策を見つけ出さなければならぬ立場になります。私の研究室では、このような会社に関する問題について、実際に発生した事例を教材として、社会の中での会社の役割や問題点、具体的事例の法的な問題点の発見、理解や問題解決のために必要な法律の考え方などを勉強しています。

研究室紹介

ビジネスアドミニストレーションコース



佐々木達也 准教授

企業行動の背景にある経営戦略や経営組織を勉強するのが佐々木ゼミナールです。

昨年度の2年生ゼミでは、「コンビニエンスストアの業界分析を手分けしておこなってきました。」

●ゼミ生「コンビニ限定のお菓子ってありませんね」

■私「そっだね。セブンにあるけどローソンにない食玩があるけど、なぜだろ？」

●ゼミ生「ファミマには無印良品が置いてあるのに、他のコンビニには無いですね」

■私「無印良品とファミマにはどんな関係があるのか調べてごらん」

ゼミでは、自分たちの目・手・足を使って資料を集め、ゼミ生自身が分析することによって、理解を深めてもらいます。本やネットを集めた借り物の知識で終わらせず、徹底的に自分の頭で考え抜くようゼミ生に求めます、シゴキます。たとえば、「DSの佐々木」と陰口をたたかれようとも……

ときには「コンビニでお菓子・飲み物を調達し、「実証研究」と称して、食べながら飲みながら、ああでもないこうでもない遅くまで議論することもあります(笑)。

学生の声



DA5展を開催しました

環境共生学科居住環境学専攻 3年

水上 陽子さん



3月6〜8日、熊本市中唐人町のPSオランジェリで、熊本県内の4大学（九州東海大学、熊本大学、熊本県立大学、崇城大学）と八代高専の5校の学生有志25人が集まり、熊本県立大学を事務局に、DA5（だご）展という第1回合同卒業設計展を開催しました。

開催に当たっては、テーマを「建築とだご（熊本弁で「とても」はなしちゃー）」とし、企画の段階から自分たちの手で作り上げました。参加した学生からは「クリティークの人」とたくさん話がしたい」「学生同士で話したい」などの意見が出され、様々な人と建築について対話することに重点を置いた「談議」を行うこととしました。しかし、「知らない人とそんなに簡単に語れるのか?」「お客さんが談議に入りやすくするためにどうしたらいいのか」などの問題点もあり、それらを解決するために何度も話し合いを繰り返しました。

いくつかの改善すべき点はありませんでしたが、お互いに熱く語ったり、笑いあったりと満足のいく談議ができ、DA5展も成功に終わったと思います。来年も開催する予定なので興味のある学生はどんどん参加して欲しいと思います。

※講評者



学生と講評者による建築談議

●サークル便り●

硬式テニス部



こんにちは！

硬式テニス部です。硬式テニス

部は、現在部員男子13名、女子17名で活動しています。

活動は、テスト前を除いて、

第二サークル棟横のテニスコートで毎日行っています。

昨年6月に行われた九州地区体育大会（九州インカレ）では、私達は主幹校として大会運営をするとともに、男子は競技においても第3位という成績を残しました。

運営の準備で忙しく、大会前に十分な練習時間が取れていなかったのにこの好成绩を収められたのは、日頃の練習の成果だと思っています。

また個人では、同じく昨年10月に行われた熊本学生テニス選手権大会において男子ダブルス優勝、女子シングルス準優勝という成績を収めるなど目覚しく成長しています。

九州規模の大会に年に5回ほど出ているので、遠征が多く大変ではありますが、その分部員同士は家族のように仲良しなので、練習も遠征もとても楽しいです。

さあ皆さんも Let's play tennis☆



国際倶楽部



こんにちは、

国際倶楽部です。現在部員23

名で留学生との交流を中心に活動しています。

先日行われた学内留学生との

交流会では、国際倶楽部が主

体となつて軽食やゲームなどを企画し、部員以外の学生や教職員の方々にも集まって頂き、普段話す機会の少ない留学生の方々とも楽しく交流することが出来ました。県大に来られる留学生は中国、韓国の方が多いのですが、皆さん驚くほど日本語が上手で、一緒に話していると自分たちの方が学ぶことが多々ありました。

また、姉妹校であるモンタナ州立大学と祥明大から研修団が来た時には私達を中心となつて歓迎会を行ったり、年に一度行われる国際交流祭典という県内の外国人の方々との交流するイベントに参加したりしています。

熊本には各国から多くの留学生が来ていますが、彼らと接する機会は少ないものです。交流会やスポーツなどを通して親しくなると、私達もその国に興味や関心が湧いてくるし、彼らも日本に興味を持ってくれます。これからも積極的に国際交流に携わっていき、外国人留学生との相互理解を深めていきたいような活動をしていきたいと考えています。



文学部 英語英米文学科 3年

部長 福島 知子さん

就職支援 ～キャリア・デザインのススメ～

就職までのタイムスケジュール			
1年	7月	就職活動支援セミナー	将来の進路を意識した、今後のキャンパスライフの過ごし方を説明します。
	7月	就職活動支援セミナー	就職に対する意識を高めるために、就職講演会を実施します。
2年	8月～9月	夏季インターンシップ	民間企業や地方自治体で実際に仕事を体験し、将来の進路を考えるのに役立っています。
	2月～3月	春季インターンシップ	民間企業や地方自治体で実際に仕事を体験し、将来の進路を考えるのに役立っています。
3年	5月	公務員ガイダンス	公務員の職種や採用試験に関する説明会です。
	6月	就職プレガイダンス	適職診断プログラムの実施の他、これから就職活動をはじめに当たっての心構えや就職活動に役立つセミナー等を週に一度のペースで実施していきます。
	8月～9月	夏季インターンシップ	民間企業や地方自治体で実際に仕事を体験し、将来の進路を考えるのに役立っています。
	10月	就職ガイダンス	就職活動ガイド(大学作成)の配付等の他、10月以降に実施する就職セミナーの説明や、就職に対する意識を高める講演等を行います。
	10月～1月	就職セミナー	週に1度のペースで就職活動に役立つ実践的な内容のセミナーを実施します。
	2月	公務員2次試験対策	集団討論や個人面接の対策を行います。
	2月	就職セミナー週間	就職活動の直前対策として、1週間集中して実践に即したイベントを行います。自己PRセミナーや履歴書・エントリーシート演習、企業説明会や公務員説明会、模擬集団面接(討論)、最新情報ガイダンス、受験相談会、筆記模擬試験等全て無料で受講できます。
4年	2月～3月	福岡地区合同企業説明会バス運行	福岡地区で行われる合同企業説明会に大学からバスを運行します。
	5月	教員採用説明会	熊本県教育委員会の担当者を招き、採用選考試験の概要を確認します。
	随時	学内企業説明会	個別の企業説明会を開催します。
		模擬面接・エントリーシート添削・就職相談等 採用情報の提供	

就職セミナー週間

就職を取り巻く状況は「売り手市場」と言われていますが、企業は厳選採用の姿勢を崩しておらず、地域・業種によっては依然厳しい状況が続いています。そのため、大学入学後の早い段階から一人一人が自分の卒業後の進路について主体的に考えるとともに、大学時代の4年間に必要な能力等を身につけることが求められています。

本学では、就職活動支援のため、学年に応じたキャリアデザインセミナーを実施していますが、就職活動をひかえた3年生に対しては、6月頃から翌年1月まで毎週就職活動に役立つ内容のセミナーを実施し、さらに就職活動の直前対策として、2月には1週間集中して「就職セミナー週間」を実施しています。

平成18年度の就職セミナー週間では、講演や県内企業人事担当者によるフォーラム、若手OB・OGによる相談会、自己PRセミナー、履歴書・エントリーシート演習、面接特別クラス、学内企業合同説明会や公務員受験相談会、公務員説明会など、就職を希望する学生の進路に合わせて選択できる内容のセミナーを実施し、多くの学生が参加しました。

特に自己PRセミナーには約300人の学生が参加し、自己分析のトレーニングを経て、1分間の自己PRができるようになりました。

また、面接特別クラスでは、初めての体験に緊張しながらも、学生はビデオ撮影した面接の様子を真剣に確認していました。

このセミナーで学んだことを活かし、満足のいく就職活動ができるよう願っています。



面接特別クラス



学内企業合同説明会

就職センター

就職情報提供と、きめ細かな就職指導・親身な就職相談を行っています。

学生の就職情報収集の場として利用できるのが、第一大会館内に設けられた就職センターです。県内外の企業からの求人票や就職情報誌、業種別に分類した約3,000社の企業ファイル、先輩の受験報告書、企業別卒業生名簿など、就職に関するいろいろな資料が揃っています。

ここでは就職に関する資料や書籍などの閲覧ができるほか、書籍やビデオテープの貸し出しを受けられます。

就職活動の主役は
もちろん「あなた自身」です。

就職センターでは、経験豊かな二人の専任の就職アドバイザーが常駐して、学生の就職相談や指導にあたっています。

指導の内容：企業情報の収集の仕方、自己PRおよび志望動機を中心とした履歴書の書き方、受験する企業に焦点を合わせた面接や入退室のマナーなど。

就職センターをよく利用する学生ほど、内定も早いようです。早い時期から就職センターを積極的に活用してください。



就職アドバイザー
近藤 俊哉



就職アドバイザー
前田 勝

● 就職センター ●

相談時間：月曜日～金曜日 午前10時から午後5時まで（昼休みを除く）

※時間外でも電子メールで相談を受け付けています。

E-mail: gakusei@pu-kumamoto.ac.jp

卒業生からのメッセージ



総合管理学部
(平成19年3月卒業)

中野 裕子 さん
熊本空港ビルディング(株)
勤務

私の大学生活は、「自分がやってみたいと思うことには挑戦！その中で出会った人々と経験は私の財産！」と今振り返ります。

総合管理学部に在籍したことで、公務員講座、教員免許取得という自分の興味を持った分野を幅広く勉強することが出来ました。また、阿蘇をフィールドに地域の方々と交流する「もやいす」育成プログラムの一員として参加し、熊本県立大学ならではの経験を積ませていただいたと思っています。

「将来的に地域の活性化に繋がるような職に就きたい」と以前から考えていた私は、これらの経験を通して益々その思いを強めていきました。今の会社を志望し、頑張ることが出来たのも、一緒に目標に向かって励まし合える仲間、親身になってご指導くださる先生方、職員の方々との出会い、そして大学生活を支えてくれた家族の応援のお陰であったと感謝しています。

私は大学4年間で培った経験が、就職活動で問われる自分の興味や強みに繋がってくると思います。「経験から何を学び、どう感じたのか」私は文章に残してよく振り返っていました。これは職業選択の際に非常に役に立ちました。ですから、後輩の皆さんにも今から自分の不出来にこだわることなく、「その中で何か一つでもいいから吸収してやるんだ」という強い意識を持って、後悔の無いよう、自分磨きの時間」に熊本県立大生の時間を是非充てて欲しいと思います。

●平成18年度前期 成績優秀者表彰 式開催(11/16)

成績優秀者の表彰制度は、学業が優秀な学生を表彰し、学生全体の勉学への意欲を喚起することを目的として実施しているものです。

表彰式は、1年・

2年・3年合同で行われ、文学部6人(日本語日本文学科3人、英語英米文学科3人)、環境共生学部13人(生態・環境資源学専攻3人、居住環境学専攻4人、食・健康環境学専攻6人)、総合管理学部42人の計61人に対して、米澤



学長から表彰状と記念品が授与されました。

●阿蘇環境管理体 験学習を実施 (11/18)



熊本県阿蘇地域振興局の協力のもと、白川源流域である阿蘇地域において、阿蘇環境管理体験学習を実施しました。当日は、環境共生学部の生態・環境資源学専攻の学生(1~4年の学部生及び大学院生を

含む)66人と教員7人が参加し、阿蘇地域の環境保全活動状況や森林機能についての説明を受けた後、各班に分かれ、除伐や枝落しなどの森林管理を体験しました。

●市民大学ア トポリス親子講 座開催(11/26)

(熊本県との共催)

この講座は、次世代を担う子どもたちを対象に、アイディアあふれた空間を創造することの楽しさを体験しながら、環境デザインに対する関心を高めてもらうおうと開催したものです。



講師はくまもとアトポリスアドバイザーの建築家・神奈川大学教授の曾我部昌史氏が務めました。県内の親子14組に加え、建築を専攻する学生も参加し、熊本ならではの

の素材であるいぐさや竹を使って、様々な家を完成させました。

フォーラム

■環境共生フォーラム 「のぞいてみよう！ 新しい木造建築の世界 〜環境共生型建築をめざして〜」を開催(12/9)

このフォーラムは、木造建築が地震に強く、人の健康にもやさしい究極の自然素材であるだけでなく、新しい空間デザインが可能な材料であることを一緒に考えることを目的に開催したもので、当日は、企業の方や高校生の方、本学学生など150人の参加がありました。

まず本学環境共生学部北原昭男教授が「木造建築の可能性」をテーマに講演を行い、これからの木構造のあり方について述べました。

続いて、ばん設計小材事務所・代表の小材健治氏から「木造建築のデザインの現在」と題し講演が行われ、ご自身の設計作品について様々な観点から説明を加えながら、木造建築のデザインについて語って頂きました。その後、本学居住環境学専攻の学生による設計作品の発表があり、また、課題は「木で創る新し

い道の駅」を設計するといふもので、選ばれた6グループ(3人1組)が発表しました。



■文学部フォーラム 「シェイクスピア万華鏡」 を開催(12/16)

シェイクスピアを「日本での受容」、「言語学」、「映像」の観点から考えることを目的に開催したこのフォーラムには、地域の方や本学学生など141人の参加がありました。

まず、大谷大学の吉津かおり助教授から、「日本の『ハムレット』受容」と題した基調講演が行われ、江戸末期から現在までの日本の「ハムレット」受容について、お話しがありました。続いて、本学文学部難波美和子助教授から、

「シェイクスピアを観光する」をテーマに、在外研究として、ロンドン滞在中に撮影したシェイクスピアゆかりの地の写真の紹介・解説がありました。

その後、同清水啓子助教授の「認知言語学から見たシェイクスピア」、そして同坂井隆講師の「仮面舞踏会がはじまる『ロミオとジュリエット』と映像」の発表があり、パネルディスカッションが行われました。

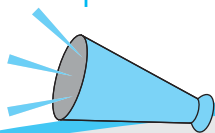


■アドミニストレーシ ョン・フォーラム 「くまもとを元気に！若 手企業リーダーの戦略 〜地域経済の活性化と企 業経営の課題〜」を開催 (1/11)

このフォーラムには、企業や自治体関係者、本学学生など、約330人の参加がありました。フォーラムではまず、熊本県商工観光労働部の渡邊昇治氏から「地域の活性化に向けた熊本県の取り組み」と題して基調講演が行われ、熊本県における経済の現状や企業の状況について詳細な説明がありました。

日本貿易振興機構(ジエト)熊本貿易情報センターと共催で開催し





お知らせ

●授業料減免制度の一部改正について

授業料減免において、平成19年度から学部及び大学院各課程の1年次生についても2年次以上と同じく「各学科・専攻等において上位1/2以内又はGPA3.0以上」という成績要件を設けることといたしました。この場合、1年次生の成績については、1年前期の成績で判定することになります。

なお、減免制度全般に関する説明会を5月に実施しますので、希望者は掲示を確認し必ず出席してください。

◆問い合わせ先 学生支援課 内線209

●授業料の納付方法について

授業料の納付方法は、ご指定の預金口座からの自動引き落としとなっています。引落日は、従来同様年3回で、本年度は下記表のようになっています。引落予定日が近づいてきましたら、学内掲示板等でお知らせしますが、預金口座や口座残高についての確認をお願いします。口座引落日以降の納付は、払い込み者自身で払込み手数料をご負担いただくこととなりますので、ご注意ください。

なお、授業料徴収猶予、分割払いなどについては、お気軽にご相談ください。

区分	金額	引落日
第1期 (4月～7月)	178,600円	5月1日
第2期 (8月～11月)	178,600円	9月28日
第3期 (12月～3月)	178,600円	1月28日

※新入生については、別途お知らせします。

◆問い合わせ先 総務課 内線257

学生相談 窓口



どんな些細なことでも構いません。気になることがあれば、いつでも利用してもらえたらと思います。「もっといきいき生きてみたい!」「自分に合った生き方をしたい。」そんな思いや疑問を感じたことはありませんか? 大学時代は、自分らしい生き方を創っていく大切な時間。一人で考え込まないで誰かに話すと少しずつ考えが整理できたり、気持ちが軽くなったりするものです。おしゃべりを楽しむ気持ちで気軽に立ち寄ってください。

お茶も用意していますので、ちょっと疲れたとき、静かに休憩したいときなどにも気軽にご利用ください。

- * 相談内容の秘密は厳守されます。安心してご相談ください。
- * 希望によって、臨床心理士のカウンセリングを受けることもできます。
- * 友達と一緒に来られても結構です。
- * ご家族からの相談もお受けしています。

相談時間：月曜日～金曜日（祝日を除く）
午前9時30分から午後4時30分

* 電子メールや電話でも受け付けています。
Eメール hoken@pu-kumamoto.ac.jp
保健室（内線216）学生支援課（内線204）

気軽に保健室へ



保健師
村山由美子

自分の生き方を模索し、悩んでいる学生さんはとても魅力的です。話すことによって自分を振り返り、学生さん自らが気づいていく力にいつも感嘆しています。

後援会便り

後援会とは、

- 本学在学生の保護者などを会員として組織されています。
- 大学の教育事業を後援し、大学と家庭及び社会との協力によって、大学教育の成果をあげることを目的としています。

後援会の事業

後援会では、就職意識啓発・公務員試験対策・各種資格取得講座やサークル活動支援、国際交流・留学支援、語学力向上支援、TOEIC®IP団体特別試験、パソコン・コピー機・図書の整備、学生の自主研究助成等を実施し、学生活動全般を支援しています。

後援会の予算

毎年度3千万円強の予算を執行していますが、収入を会員の方々の会費で賄っています。より多くの保護者の方々に会員になっていただくことによって、より充実した事業が実施できます。

入会・会費納入

新入生へは、本学合格通知の際に、後援会の説明及び入会・会費納入のお願いをしています。保護者の皆様には、ぜひともご加入頂きますようお願いいたします。

なお、2年生以上の未入会の方も、随時入会を受け付けていますので、お気軽にご相談ください。

総会のご案内

例年、6月下旬の土曜日に、本学において後援会総会を開催し、前年度の事業報告・決算、当年度の予算・事業計画について会員の皆様にご審議いただいています。

平成19年度の総会は、本学の60周年記念事業と合わせて6月23日（土）に開催します。詳細については5月頃ご案内いたします。皆様のご出席をお待ちしています。

平成18年度事業の新たな動き

◎就職情報検索WEBの開設

本学に寄せられた求人情報をパソコンや携帯電話から検索し、求人票を閲覧することができる就職情報検索WEBを開設しました。ぜひ、就職活動にご活用ください。（※ただし、利用は本学の在学生に限ります。）

◎公務員講座の内容一新

厳しさを増す公務員採用試験をにらみ、本格的に公務員予備校の受験ノウハウを導入しました。さらに平成19年度は、3年生向けの講座を早期開講し、じっくりと取り組めるカリキュラムへと改編します。詳細は4月の掲示にてお知らせする予定です。

◎TOEIC®IP団体特別試験受験料の一部助成

大学と連携して、TOEIC®IP団体特別試験を年2回学内で実施しています。会員学生は2,500円で受験できます。

※参考：TOEIC®公開テストの受験料は6,615円

◎2級建築士受験対策講座受講料の一部助成

学内での講座とe-ラーニングからなる2級建築士受験対策講座を開始し、平成18年度は4年生が19人、3年生が2人受講しました。

◎管理栄養士模擬試験受験料の一部助成

◎資格取得助成事業 対象資格の追加・内容拡充

資格取得講座等助成事業の助成対象者が昨年度の約6倍に増えています。

助成対象資格はこの他にもたくさんありますので、学内掲示をご覧になるか、後援会事務局にお問い合わせください。申請をお待ちしています！

資格名	助成額	H18年度 見込人数	H17年度 人数
TOEIC®(650,730,800点以上)	3,000～8,000円	27	0
TOEFL®(500,550点以上)	5,000～8,000円	2	0
英検(準1級、1級)	5,000～10,000円	4	0
簿記(3級～1級)	3,000～10,000円	22	0
福祉住環境コーディネーター	3,000円	8	15
食生活アドバイザー2級	3,000円	7	0
調理師(食・健康環境学専攻学生のみ)	3,000円	2	0
宅地建物取引主任者	3,000～10,000円	4	3
初級システムアドミニストレータ	3,000～10,000円	4	0
環境計量士、ファイナンシャルプランニング技能士、基本情報技術者、旅行業務取扱管理者、危険物取扱者、秘書検定(準1級、1級)、管理栄養士 他	3,000～15,000円	45	3
合計		125	21

資格の種類、点数、等級、取得のための講座受講料の金額により助成額が異なります。

【後援会の主な事業】

1. 就職対策事業

- ・就職対策講座として公務員講座、2級建築士講座、簿記講座等を開催。
- ・適職診断プログラムの実施、各学部による就職支援事業への助成、OB・OGと連携した就職支援事業の展開。

2. 学生活動支援事業

- ・各サークルの活動費の一部、全国大会出場経費等の一部を助成。
- ・学生のリクエストに応じ図書を購入し、図書館へ配置。

3. 国際交流推進事業

- ・海外留学・研修の期間に応じて経費の一部を助成
- ・留学対策講座 英語圏の国に留学する際に必要なTOEFL®対策を行います。

4. 教育研究助成事業

- ・学生グループが自発的に行う研究の経費や研究成果の具体化事業へ助成。
- ・インターゼミナール等の国内学生大会への出場旅費の一部を助成。

● 熊本県立大学内後援会事務局(内線237)・学生支援課(内線204) ●

熊本県立大学 TEL: 096-383-2929(代表)

平成19年度前期(2007.4~2007.9)行事予定

月	日	内 容
4月	7日	入学式(於：県立劇場)
	上旬	卒業年次健康診断
	7・9日	大学院新入生オリエンテーション
	9日	授業公開講座開講式(社会人)
	9・10日	学部新入生オリエンテーション
	11日	在学生オリエンテーション
	12日	授業開始
	19日 28日	日本学生支援機構奨学金説明会 創立60周年記念シンポジウム(春)
5月	1日	授業料第1期分引落日
	2日	開学記念日
	中旬	卒業年次以外健康診断
	27日	モンタナ州立大学ビリングス校短期研修団受入(~6月6日、11日間)
6月	中旬	TOEIC®団体特別試験(第1回)(予定)
	23日	後援会評議員会及び総会
	23日	創立60周年記念シンポジウム(夏)
	28日	韓国祥明大校短期研修団受入(~7月7日、10日間)
7月	30日	前期試験(~8月10日)
	下旬	オープンキャンパス
8月	上旬	授業公開講座(後期)受講生募集
	上旬	モンタナ州立大学ビリングス校夏期研修団派遣(3週間程度)
	11日	夏季休業(~9月30日)
9月	中旬	韓国祥明大校短期研修団派遣(10日間程度)
	28日	授業料第2期分引落日
	未定	大学院(環境共生学研究科)入学試験(秋季募集)
	未定	自己推薦型入試(総合管理学部)

*期日は変更となる可能性がありますので、学内掲示板により確認するか、担当課までお問い合わせください。

■春秋彩とは

万葉集の額田王の春秋を論じた歌の詩書「春山の万花の艶と秋山の千葉の彩」から採ったもの。「春秋」には年月の意味もあり、「春秋に富む」若者を彩る学園の四季を表している。

熊本県立大学

発行：熊本県立大学

〒862-8502 熊本市月出3丁目1番100号
TEL. 096(383)2929(代) FAX. 096(384)6765
http://www.pu-kumamoto.ac.jp/

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています

PRINTED WITH
SOY INK

この印刷物は大豆インキを使用しています

Information

●歴史と伝統が地域の未来をつなぐ… 創立60周年記念事業を展開!

歴史と伝統に彩られた熊本県立大学—平成19年度は、昭和22年に本学の前身である熊本女子専門学校が設置されて以来、創立60周年の節目の年に当たります。

この記念すべき年を祝うとともに、この機会に本学のステークホルダー(関心をお持ちの方すべて)との交流を図り、「地域に生き、世界に伸びる」大学づくり」に弾みをつけるため、様々な記念事業を展開します。

■ 創立60周年記念イベント

趣向を凝らしたシンポジウムなどを年4回行います。春(高校生対象)、夏(保護者、一般対象)、秋(学生対象)、冬(卒業生対象)のイベントを企画・開催します。

■ 歴史的資料収集事業

創立60周年を機に、本学の歴史を物語るような資料を収集します。ご協力をお願いします。

■ 全学共通科目「熊本学のススメ」の編集

本学の学術研究、地域連携の成果を教科書にまとめ、発刊します。

■ 「熊本県立大学未来基金」の創設・準備

本学のさらなる発展を期し、創立65周年に向けた事業展開を行うための基金づくりにとりかかります。

◆問い合わせ先：熊本県立大学事務局企画調整室 内線224

●熊本県立大学授業公開講座のお知らせ

本学では、平成2年度から大学の正規の授業を一般に公開する「授業公開講座」を実施しています。語学、文学、環境、経営、行政など幅広い分野で、地域の方々が学生に交じって専門的な講義を受講しています。受講料は、通年の講座が1万円、半期の講座が5千円となっています。平成19年度後期(平成19年10月から)開講の講座については、8月に受講生の募集を行います。

詳しくは大学ホームページをご覧ください。地域連携センターまでお問い合わせください。

◆問い合わせ先：熊本県立大学地域連携センター 内線500

「春秋彩」へのご意見・ご感想お待ちしております。

本誌についてのご意見・ご感想を下記までお寄せください。いただいたご意見は、今後の学報編集の参考にさせていただきます。

〒862-8502 (住所記載不要)

熊本県立大学企画調整室「春秋彩」担当行

FAX: 096-384-6765

E-mail: kikaku@pu-kumamoto.ac.jp